

# 國學院大學學術情報リポジトリ

秋吉久紀夫訳編『穆旦詩集』の翻訳に関する一考察：  
「Chorus 二篇」を例として

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 蔣, 静瑤 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00001611">https://doi.org/10.57529/00001611</a>

# 秋吉久紀夫訳編『穆旦詩集』の翻訳に関する一考察 —「Chorus 二篇」を例として—

A case of *Mu Dan's poetry collection* translated by Akiyoshi kukio:  
Focusing on *Two Chorus*

蔣 静 瑤

キーワード：穆旦 Chorus二篇 秋吉久紀夫訳 等価効果 扁平化处理  
关键词：穆旦 合唱二章 秋吉久紀夫译本 效能对等 扁平化处理

## 要旨

秋吉久紀夫訳編『穆旦詩集』に、66首の穆旦詩の日本語訳は収録されている。本稿は、穆旦の早期作品「Chorus 二篇」を例として、詩歌の創作と修訂の経過をまとめ、詩歌の特徴について論じる。さらに、言語学派の翻訳理論、及び穆旦(査良錚)本人が翻訳家として詩歌翻訳にいての発言に基づき、形式と内容両方面から秋吉久紀夫の翻訳について考察を行う。結論は以下の通りである。第一、形式より内容優先は翻訳の一般の原則であるが、詩歌の独自性を考え、内容を損害しない前提に、形式的等価効果を注意する必要がある。第二、語彙の扁平化处理は常にある翻訳方略であるが、内容を伝えることに悪い影響を与えれば、変更すべきだと思われる。

## 摘要

秋吉久紀夫编译的《穆旦诗集》中，收录了66首穆旦诗歌的日文翻译。本文以穆旦早期作品《Chorus 二章》为例，梳理了诗歌的创作修改过程，并对诗歌的主要特色加以论述。同时，根据语言学派的翻译理论，以及穆旦(査良錚)本人作为翻译家对诗歌翻译的看法，从形式和内容两方面对秋吉久紀夫の译本进行考察，得出以下结论：第一，内容优先于形式是翻译的一般原则，但由于诗歌的独特性，在不影响内容的前提下也应注意形式的对等效果。第二，词语的扁平化处理是一种较为常见的翻译策略，但在影响内容表达的情况下，应适当改善。

## 1. 創作の経過：「Chorus二章」・「合唱」と「合唱二章」

穆旦(1918-1977)の本名は査良錚であり、中国現代の詩人、翻訳家。主要な著作に詩集『探險隊』・『穆旦詩集』・『旗』・『九葉集』(8名の詩人との共著)などがあり、訳書に『プーシキン抒情詩集』・『文学原理』・『バイロン抒情詩選』などがあ

る。同じ九葉詩派<sup>(1)</sup>の唐祈に、「かれの創作した詩は、抽象的で深奥で、イメージは重複し、沈鬱さは重厚で、独特な風格をもち、大胆に現代的な形象を用いて現代の生活を表現し、かれと同世代（とりわけインテリゲンチヤ）の魂の世界と歴史的経験—前世代の人間が、いまだ遭遇したことの無い独特の体験—を描きだし、かれをしてかれに相応しい現代派詩人の榮譽を獲得させ、「九葉詩派」の代表詩人の一人となさしめた」<sup>(2)</sup>と高く評価されている。

詩「Chorus二章」は1939年2月に創作された。最初に香港『大公報・文芸』1939年10月27日号に掲載され、1945年に穆旦の詩集『探險隊』に収録された。後も『穆旦詩集』『穆旦詩文集』『穆旦自選集』など詩集に収録された。

表1 詩のテーマと収録された詩集

テーマ	収録された詩集
Chorus二章	香港『大公報・文芸』1939年10月27日号
Chorus二章	探險隊.文聚社, 1945
合唱	穆旦詩集(1939-1945). 発行人 穆旦, 1947
合唱	穆旦詩集(1939-1945). 人民文学出版社, 2000
合唱二章	穆旦詩文集.人民文学出版社, 2005
合唱	穆旦自選集.天津人民出版社, 2010
合唱二章	穆旦詩文集.人民文学出版社, 2018

詩のテーマと収録された詩集は、表1である。版によって、詩のテーマは違う。まず、1939年香港『大公報・文芸』・1945年『探險隊』・1947年穆旦詩集(1939-1945)に収録された「Chorus二章」と「合唱」は、穆旦本人が認めるテーマであり、2000年人民文学出版社に出版された『穆旦詩集(1939-1945)』以後は、編者の意見も含め、特に2005年と2018年人民文学出版社に出版された『穆旦詩文集』に、本詩のテーマは「合唱二章」に変更されることは、編者の修訂と関わりがあると思われる。次に、『文聚』1945年第2巻第2期には、1943年3月に創作した「合唱二章」が掲載された。その「合唱二章」は1947年穆旦詩集(1939-1945)に「祈

(1) 九葉詩派：20世紀40年代に詩壇で活躍している辛笛、穆旦、鄭敏、杜運燮、陳敬容、杭約赫、唐祈、唐湜、袁可嘉9人を指す。江蘇人民出版社が1981年に出版した『九葉集』から名を得た。

(2) 唐祈. 現代派杰出的詩人穆旦——紀念詩人逝世十周年. 詩刊, 1987(02). 秋吉久紀夫訳。

神二章」に改題し、2005年『穆旦詩文集』に収録された「合唱二章」とは完全に別の内容だが、「合唱二章」というテーマを使えば混淆する可能性が高い。さらに、秋吉訳の底本は文芸社（中国雲南省昆明）、1945年1月刊の初版本『探險隊』を使用するため、日本語に「Chorus 二篇」と訳した。以上、本稿には、本詩の中国語テーマを「Chorus二章」、日本語テーマを「Chorus 二篇」と呼ぶことにする。

また、テーマのほかに、内容を修訂するところもある。特に、最初の『大公報・文芸』版と比べ、『探險隊』版の内容は大幅に更新した。表2は、『大公報・文芸』版と『探險隊』版の内容の比較である。

表2 『大公報・文芸』版と『探險隊』版の比較

詩集	内容
香港 『大公報・文芸』	「當夜神撲打古國的靈魂」 「靜靜地，原野沈視着黑空」 「一隻魔手堵塞你們的胸膛」 「這一刻你們在崖壁上抖索」 「用它峯頂的靜穆的聲音」 「悄悄迸湧出堅強的骨幹」 「幽深天穹下那野性的海洋」 「它柔光的手掌抓起了神州的心房」 「讓我扣著你們的節奏舞蹈」
『探險隊』	「當夜神撲打古國的魂靈」 「靜靜地，原野沉視着黑空」 「一隻魔手閉塞你們的胸膛」 「這一刻你們在岩壁上抖索」 「用它峯頂靜穆的聲音」 「緩緩迸湧出堅強的骨幹」 「渾圓天穹下那野性的海洋」 「它柔光的手指抓起了神州的心房」 「讓我扣著你們的節奏舞蹈」

まず、「沈視」と「沉視」の漢字変化、「的」の削除など字面的な修訂がある。それは漢字の発展と関係あり、他の詩にも「裏」と「里」の簡繁転換（「祈神二章」）、「年輕」と「年青」の用法不統一（「自然底夢」）など修正の部分がある。「的」の用法について、「自然底夢」・「幻想底乘客」などテーマがあり、その中の「底」は「的」と用法も意味も同じだが、その時期特定の言語現象として使われた。しかし、「幻想底乘客」には、「底」（例えば「幻想底航線」）・「的」（例えば「巨輪の一環」）の

表現は両方もあり、混用する現象もあるが、それは内容の理解や詩の鑑賞に影響があるとは言えない。次に、「靈魂」と「魂靈」・「堵塞」と「閉塞」・「崖壁」と「岩壁」・「舞蹈」と「舞踏」など意味が変わらないのを前提として、言葉の言い方を少し変えるところもある。例えば、表3に、香港『大公報・文芸』・『穆旦詩集』(2000)・『穆旦詩文集』(2005)・『穆旦詩文集』(2018)は「舞蹈」、『探險隊』・『穆旦詩集』(1947)・『穆旦自選集』は「舞踏」と書いているが、『探險隊』・『穆旦詩集』(1947)は穆旦本人が自選したもので、『穆旦自選集』も遺族が穆旦の手稿により整理したものであり、「舞踏」という表現は、穆旦の意識的な修正であると判断できる。さらに、「悄悄」と「緩緩」・「幽深」と「渾圓」・「手掌」と「手指」など、語彙を変えることを通して、空間的イメージに具体化することもある。「悄悄」は「静かに」、「緩緩」は「緩やかに」という意味で、聴覚の描写に視覚の描写に変える。「手掌」(手のひら)は「神州の心房」を掴みあげられなく、「手指」(指)に直すのは、抽象化した描写に具象化した描写に変える。穆旦早期の作品として、芸術力の磨きが見られる。

表3 「舞蹈」と「舞踏」の修訂

詩集	「舞蹈」と「舞踏」
香港『大公報・文芸』	「舞蹈」
『探險隊』	「舞踏」
『穆旦詩集』(1947)	「舞踏」
『穆旦詩集』(2000)	「舞蹈」
『穆旦詩文集』(2005)	「舞蹈」
『穆旦自選集』	「舞踏」
『穆旦詩文集』(2018)	「舞蹈」

袁可嘉「詩人の位置」<sup>(3)</sup>に、本詩に以下の評価を与えた。「[合唱二章]<sup>(4)</sup>は、愛国心を持った詩である。当時の中国は、抗日戦争の期間において、多大な苦痛を受けていた。穆旦は民族の危機感を生んで、「莊嚴な聖殿」が倒れることを不安に思ったが、「血でもって祭られる」ことを強く主張し、聖殿を「かがやく、かがや

(3) 杜運燮 周與良 袁可嘉 編。一個民族已經起來——懷念詩人，翻譯家穆旦。江蘇人民出版社，1987，P12。筆者訳。

(4) 本詩「Chorus二章」を指す。

く」ようにした。しかし、「合唱」は豪気満々だが、深さが足りない。彼は情熱に祖国を謳うが、国が特有な苦難は未だにわからない。」

袁可嘉の評価は客観性があり、感情表現が豊だと褒めるが、深さの欠如を指摘した。また、創作背景については、1939年2月に、21歳の穆旦は蒙自における西南聯合大学文法学院の学生だった。ワシントン・アーヴィング (Washington Irving) の『スケッチ・ブック』(*The Sketch Book of Geoffrey Crayon, Gent.*)・ウォルター・ホイットマン (Walter Whitman) の『草の葉』(*Leaves of Grass*)などを愛読し、ロシア人教授Gapanovitchのもとでロシア語を学んだ。詩歌の創作も西洋の影響を受けた。例えば、「Chorus 二章」にアルファベットのOで感嘆詞を表している。ホイットマンの詩にも、「O Take my hand Walt Whitman!」<sup>(5)</sup>などOの感嘆表現が多く、穆旦はその影響を受ける可能性が高い。

## 2. 秋吉訳の特徴

訳者の秋吉久紀夫は詩人、中国文学者であり、九州大学名誉教授、文学博士。著書に、詩集『南方ふぐのうた』『天敵』、論著『変革期の詩人たち』『華北根拠地の文学運動』『近代中国文学運動の研究』『ホー・チ・ミン獄中日記—そのひとつと詩—』、訳編『中国現代詩集』『アジア・アフリカ詩集』『馮至詩集』『何其芳詩集』『卞之琳詩集』『陳千武詩集』『精選中国現代詩集』など多数がある。

秋吉久紀夫は中国現代詩に詳しく、翻訳の場合に背景調査を重んじる。宗白華氏宅・謝冰心女士宅などに訪問し、『中国現代詩人訪問記』を編成した。そこには記入していないが、1993年7月(『穆旦詩集』の翻訳を出版する1年前)、穆旦夫人周興良教授に訪ね、穆旦の人生経歴と詩の創作についてインタビューをした。登場人物(「神魔の争い」の董庶・「空虚さから充実へ」と「蛇の誘惑」の徳明夫人など)の真実性を探究し、研究の重点は穆旦のビルマ戦線での体験と「森林の魑魅」の創作に置き、「ビルマ戦線の穆旦—詩「森林の魑魅」の主題」と「穆旦と丸山豊—ブルマでの彼我の戦い」を書いた。

上記の通り、秋吉訳「Chorus 二篇」の底本は、穆旦が訂正した『探険隊』に載せている「Chorus 二章」である。以下は形式と内容の2つの方面から、秋吉訳

(5) Walt Whitman. *Leaves of Grass*. The Floating Press, 2009, P223.

に着目して考察を行う。

## 2.1 形式の「忠実性」

詩の翻訳には、内容はもとより、形式も重要な役割を担っている。E・A・ナイダは『照応の原則』(*Principles of Correspondence*)に、詩を翻訳する場合に元の形式を保持する難しさと論じた。「散文に比べ、詩歌における形式の要素は重視されている。それは、詩歌を翻訳する場合に内容を犠牲にするわけではなく、内容は特定の形式の土壌にしっかり圧縮されているためだ。ごく少数の状況において、形式と内容は同時に保存されるが、一般的に、形式は内容のために失われる。換言すれば、散文に翻訳された詩歌は、起点テキストと十分に等価ではなく、コンセプトや内容は複製できるが、感情表現の強さや原詩のイメージを再現することには乏しい。」<sup>(6)</sup>特に近体詩を翻訳する場合に、平仄が合わせるか、韻の禁忌があるかという形式の問題について、注意しなければならない。現代詩の領域にそのような問題はないが、形式と内容の矛盾が体现される。アンソニー・ピムは『翻訳理論の探求』に、翻訳の普遍的特性には、「翻訳はその起点テキストよりも長くなる傾向がある」<sup>(7)</sup>と論じた。

本詩「Chorus二章」を例として、起点テキスト(中国語)は554字であり、目標テキスト(日本語)は915になった。字数は2倍近くであっても、内容の拡充と同じ話ではない。逆に、それは形式の「忠実性」の体现であり、訳者になるべく原文の情報を伝えるわけだ。その理由としては、以下のような点が挙げられる。

まず、翻訳の字数は目標テキストと言語と関係がある。王宏印の英訳「Two Chorus」は350字であり、起点テキストより字数が少ない。それは言語の特徴で、中国語を英語に翻訳すれば、字数が少なくなり、日本語に翻訳すれば、字数が多くなる。句題和歌の例を挙げれば、大江千里の和歌「鶯の 鳴きつる声に さそはれて 花のもとにぞ 我は来にける」は、白居易の詩「鶯聲誘引來花下」に踏まえて作られた句題和歌であり、情報量はほぼ同じである。つまり、中国語を日本語に翻訳する場合に、少し長くなることは避けられない。

次に、翻訳の方略については、秋吉訳は解釈的翻訳する傾向がある。例えば、

(6) Eugene Nida. *Principles of Correspondence*. Routledge, 2000, P127. 筆者訳。

(7) アンソニー・ピム. 翻訳理論の探求 武田珂代子訳. みすず書房, 2010, P133.

「叫遠古在你的輪下片片飛揚」の翻訳は、「遙かなる古代をあなたの車輪のしたでしきりに舞いあがらせる」である。翻訳の分析は、表4である。「遠古」は「遙かなる古代」に、「飛揚」は「舞い上がる」に、解釈的に翻訳するが、字数が多くなる。実は、「遠古」を「遠古（えんこ）」に、「飛揚」を「飛揚（ひよう）」に翻訳することも可能であるが、起点テキストのイメージとは全然違う。「遠古」は『日本国語大辞典』にはなく、『大辞林 第三版』に「遠い昔。はるかな昔」と解釈されるが、『大辞林 第七版』にはなくなり、使い頻度が非常に低い言葉だと思われる。「飛揚」は『日本国語大辞典』にはあり、解釈の1つは「飛び上がること。高く翔けること。また、空中にひるかえること。」用例として、『性霊集』遊山慕仙詩「飛雲幾生滅、靄々空飛揚」・『保元物語』為義降参の事「涙欄干として、魂飛揚すと見えて」・『太平記』義助朝臣病死事「中黒の旗一流幽に風に飛揚して」<sup>(8)</sup>などがあり、すごく古風で、現代詩のイメージに合わない。そのため、解釈的に翻訳の方略を採用する以外の方法はないと思う。

表4 「叫遠古在你的輪下片片飛揚」の翻訳分析

原文	翻訳
叫 (jiao)	使役形 (を…せる)
遠古 (yuangu)	遙かなる古代
在 (zai)	で
你的 (nide)	あなたの
輪下 (lunxia)	車輪のした
片片 (pianpian)	しきりに
飛揚 (feiyang)	舞い上が (らせる)

## 2.2 内容の「扁平化」

秋吉訳から、以下の例を選出する。

- (1) a. 緩緩迸湧出堅強的骨幹  
b. ゆるやかに堅固の中核を形成する
- (2) a. 從崑崙，喜馬，天山的傲視  
b. 崑崙山や、ヒマラヤや、天山の俯観から

(8) 日本国語大辞典 第九巻. 小学館, 1981, P143.

- (3) a. 萬萬精靈已躡出了模糊的  
    碑石, 在守候, 渴望裏彷徨  
    b. 数知れぬ精靈はすでにばけた碑石を  
        メッキし、期待と渴望のなかをさすらっている
- (4) a. 流下了乾燥的, 卑溼的草原  
    b. 乾燥し、湿った草原へ流れ下る

例(1)、中国語に「迸湧」は、「突然湧き出す、湧き出るようにする」<sup>(9)</sup>意を持っている。「形成」に翻訳すると、ダイナミックな感情の強さを表現できない。「骨幹」は、「骨格；全体的に重要な機能を果たす人や物；気性；生理学に長骨の中央部を指す」<sup>(10)</sup>という4つの意味で、原詩には「からだの骨組」と「核心」2つの意味が含まれて、翻訳の「中核」はただ「核心」の意味を伝えて、「骨幹」の本意を表していない。

例(2)、「迸湧」は、「驕った態度で観る」<sup>(11)</sup>という意味で、辞典の用例を見れば、方位だけではなく、その態度も強調していることがわかる。しかし、翻訳の「俯観」は「上から下へ観る」という方位を強調し、驕った態度は現れていない。

例(3)、「躡」は「ゆっくりと歩く」<sup>(12)</sup>という意味で、「精霊」は「碑石」から歩き出したということを伝えているが、秋吉は「メッキ」と翻訳して、「鍍金、金属の薄膜を強固に密接させる」という意になった。それは、感情の強さとかではなく、原文の意味を全く間違え、誤訳の例である。

例(4)、中国語の原文は「草原が流れ下る」と理解できるが、翻訳は「草原へ流れ下る」と変えた。それも誤訳の例として認められる。

例(3)と例(4)は、誤訳の例として選ばれたが、例(1)と例(2)は、簡単に誤訳と認められない。完全に意味を間違えるというわけではなく、起点テキストと「等価効果」を効かずに、原文の一部が伝えられないのだ。上記4つの例には、骨幹が湧き出す、山が驕った態度で観る、碑石をゆっくりと歩き出す、草原が流れるという表現は、自然違反の、日常生活に出てこない組み合わせだが、秋吉訳には、「中核を形成する」、「山の俯観から」、「碑石をメッキし」、「草原へ流

---

(9) 現代漢語大辞典 下. 漢語大辞典出版社, 2000, P1744.

(10) 現代漢語大辞典 下. 漢語大辞典出版社, 2000, P3172.

(11) 現代漢語大辞典 上. 漢語大辞典出版社, 2000, P389.

(12) 現代漢語大辞典 下. 漢語大辞典出版社, 2000, P3087.

れ下る」と処理し、詩作は常態化となり、想像力を失った。それは本詩における個別現象ではなく、余光中詩の日本語訳にも、起点テキストを再現できず、発想が豊かな原文を理性に伝えていることがある。林璋 (2015) は、この現象を「扁平化処理」と呼ぶ。なぜ詩の翻訳にその問題が出るのか、その理由としては、以下のように考えられる。

まず、起点テキストの特徴と関係ある。アレン・テイト (Allen Tate) は『現代詩の領域』に、詩的理解については、「人は「作者の詩的刺激」に反応することによって条件反応を起こすのだ。人は詩人の個性を得る」<sup>(13)</sup>と論じた。さらに、詩は人に「知的経験」(intellectual experience)ではなく、「情緒的経験」(emotional experience)を与える。つまり、詩は詩人と読者の媒介であり、読者に感情を伝え、読者を感動させるのは一番大事なことである。修辞など詩の技法は、感情を伝えるために存在しているのだ。また、語彙の「詩的価値」の表現方法は単一ではなく、詩の種類とも関係がある。たとえば、抒情詩と叙事詩は、語彙のニュアンスと修辞法が違い、字義通り陳述から出発するのか、想像力を使ってイメージを創造するのか、色々な相違点がある。

(5) a. 「落雪的夜」

北方,  
落雪的夜裏  
一个伙伴  
給我送来一包木炭。  
他知道我寒冷, 我貧窮,  
我没有火。

b. 「雪の降る夜なか」

北方の、雪の降る夜が、  
ひとりの友が、  
わたしに木炭一包みを送ってくれた。  
かれはわたしの震えていることを、貧しいことを、わたし  
に火の気のないことを知っていた。

---

(13) アレン・テイト. 現代詩の領域 福田陸太郎訳. 南雲堂, 1960, P97.

例(5)<sup>(14)</sup>は、牛漢の詩「落雪的夜」の冒頭部分であり、「Chorus 二章」と同じ、愛国を主題とする現代詩で、翻訳も秋吉久紀夫である。起点テキストより少し長くなるが、「扁平化处理」の現象はない。それは、原詩の風格が違うことで、写実的に描けば、翻訳する場合に伝達しやすい傾向があるためだ。

次に、翻訳の方略と関係ある。上記のように、秋吉訳の底本は『探険隊』版の「Chorus 二章」であり、最初の版本よりさらに彫琢され、作者の意志も強くなった。起点テキストの特徴として、第一は散文化。現代詩は、形式も内容も伝統的な韻文と区別し、西洋思想の受容と当時の文化背景が体现されている。第二は修辞。比喻や擬人化表現を通して、抽象的な感情を具体的に呈する。具体的には、「沉視」・「傲視」など主観性の語彙が多く、それに口語体であっても巨大な力を含め、壮大な感じを伝えている。

では、以上の特徴に基づき、本詩を日本語に訳す場合、どう処理すればいいのだろうか。穆旦は翻訳家査良錚の身分もあり、「談訳詩問題——併答丁一英先生」に、詩の翻訳について発言した。第一、「字は字に、句は句に、構造は構造に翻訳する原則は、私の訳詩には採用しない。それは最上の方法ではないと信じている。」<sup>(15)</sup> 即ち形式より内容優先である。第二、「文学翻訳に一番重要な任務は、原作者の文字を再現することではなく、本国の言語で原作に反映された現実的形象を複製することだ。」<sup>(16)</sup> 即ち翻訳は、一定的な自主性があり、原詩の神髓を伝えるのは大事だ。そうであるならば、語彙の「扁平化处理」は翻訳方略として、原詩の魅力を伝えることに悪い影響があり、内容の「扁平化」に引き起こすため、さらに磨くべきだと思っている。

## おわりに

本稿は、言語学派的翻訳理論及び査良錚が詩の翻訳についての意見をもとに、「Chorus 二篇」を一例として、中国現代詩の日本語訳を考察する。結論として、第一、翻訳の場合、内容は形式より優先だが、詩は形式美を重んじるため、内容

---

(14) a: 牛漢. 牛漢抒情詩選. 青海人民出版社, 1989, P57. b: 秋吉久紀夫訳編. 精選中国現代詩集—変貌する黄色の大地—. 土曜美術社出版販売, 1994, P85. 原書P162に「青海人民出版社」を「青梅人民出版社」と誤字にした。

(15) 李怡 易彬 編. 穆旦研究資料 (上). 知識産権出版社, 2013, P180. 筆者訳。

(16) 李怡 易彬 編. 穆旦研究資料 (上). 知識産権出版社, 2013, P181. 筆者訳。

を破壊しない上で形式を守ることは重要だ。第二、主観を客観に、感性を理性に変える語彙の「扁平化处理」は、内容を伝えることに悪い影響を与えるため、良い翻訳方略として認められない。

## 参考文献

- [1] 穆旦 著. 探險隊. 文聚社, 1945。
- [2] 穆旦 著. 穆旦詩集 (一九三九—一九四五). 發行人 穆旦, 1947。
- [3] 杜運燮 周與良 袁可嘉 編. 一個民族已經起來——懷念詩人, 翻譯家穆旦. 江蘇人民出版社, 1987。
- [4] 牛漢. 牛漢抒情詩選. 青海人民出版社, 1989。
- [5] 穆旦 著. 穆旦詩集 (1939-1945). 人民文学出版社, 2000。
- [6] 穆旦 著. 穆旦詩文集. 人民文学出版社, 2005。
- [7] 陳伯良 著. 穆旦伝. 世界知識出版社, 2006。
- [8] 穆旦 著. 穆旦自選集. 天津人民出版社, 2010。
- [9] 易彬 著. 穆旦年譜. 中国社会科学出版社, 2010。
- [10] 易彬 著. 穆旦與中国新詩の歴史建構. 中国社会科学出版社, 2010。
- [11] 李怡 易彬 編. 穆旦研究資料 (上) (下). 知識産権出版社, 2013。
- [12] 王宏印. 不朽的詩魂：穆旦詩解析・英訳與研究. 南開大学出版社, 2018。
- [13] アレン・テイト. 現代詩の領域 福田陸太郎訳. 南雲堂, 1960。
- [14] 穆旦. 穆旦詩集. 秋吉久紀夫 訳編. 土曜美術社出版販売, 1994。
- [15] 秋吉久紀夫訳編. 精選中国現代詩集—変貌する黄色の大地—. 土曜美術社出版販売, 1994。
- [16] ジェレミー・マンディ. 翻訳学入門 鳥飼玖美子監訳. みすず書房, 2009。
- [17] アンソニー・ビム. 翻訳理論の探求 武田珂代子訳. みすず書房, 2010。
- [18] 秋吉久紀夫. 中国現代詩人訪問記. 中国書店, 2010。
- [19] 秋吉久紀夫. 中国現代詩人論. 土曜美術社出版販売, 2013。
- [20] Eugene Nida. Principles of Correspondence. Routledge, 2000。
- [21] Walt Whitman. Leaves of Grass. The Floating Press, 2009。
- [22] 唐祈. 現代派杰出的詩人穆旦——紀念詩人逝世十周年. 詩刊, 1987(02)。
- [23] 林璋. 余光中詩歌の日文翻訳. 応用外語学報, 2015(12)。
- [24] 新堀司. ブレイクの影--穆旦の「野獸」をめぐる. 異文化の諸相, 2001 (22)。